

荒野に宴をもうけ(4月)

＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

4月1日

さて、大きな家には金や銀の器だけではなく、木や土の器もあります。一方は貴いことに、他方は普通のことにも用いられます。だから、今述べた諸悪から自分を清める人は、貴いことに用いられる器になり、聖なるもの、主人に役立つもの、あらゆる善い業のために備えられたものとなるのです。－2テモテ2:20

これらの器を区別するものは何なのでしょう。大切な点は、その区別は質の違いによるのであって、機能の違いによるのではないことです。大きな家を維持するためには、相対に言って、その機能ではなく、その質が重要なのです。金や銀の器は木の家具や土の器に比べればはるかに有用性は低いのですが、神はここでその利用目的を論じているのではなく、神ご自身にとっての彼らの有用性を指摘されるのです。曲がった時代にあつて、神は単なる利用価値ではなく、その本質的価値を見極めておられるのです。金の数オンスは木のベンチが並んでいる大きなホールの価値に匹敵するのです！霊的には二人の人がまったく同じ言葉を発するかも知れませんが、その力は彼らの言葉にあるだけではなく、彼らがどのような者であるかにかかっているのです。バラムとイザヤは共にキリストの御国を語りましたが、私たちはどちらの言葉に寄り頼むべきかは明らかなのです。

荒野に宴をもうけ(4月)

＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

4月2日

彼らではなく、わたしたちこそ真の割礼を受けた者です。わたしたちは神の霊によって礼拝し、キリスト・イエスを誇りとし、肉に頼らないからです。－ピリピ3:3

割礼は他の人類とユダヤ人を分ける印でした。では私たちクリスチャンと他の人々を分ける印は何なのでしょう。慈善でしょうか？知恵でしょうか？善良さでしょうか？熱心さでしょうか？他の人々もそれらは持っています。それらは神の民にとっても特殊ではありませんが、ひとつだけそうであるものがあります。それは自己確信の欠如です！神の民を分ける印は、肉に対する確信が打ち砕かれて、ただ主ご自身にのみ頼る姿勢です。私はあるクリスチャンたちを知っていますが、彼らは神の御旨を知っているとあまりにも確信に満ち溢れ、自分がミスを犯すであろう事すら考慮しませんでした。彼らは霊的な究極の印を欠いているのです。それは霊的な“割礼”であり、すなわち肉に何ら信頼しないことです。霊の人はへりくだりつつ歩みます。つねに自分が過ちを犯すであろうと意識しているのです。彼は喜んで外典にある幸いに同意するでしょう：自分が過ちを犯すかも知れないことを知る人は幸いだ、と。

荒野に宴をもうけ(4月)

＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

4月3日

キリストが死に、そして生きたのは、死んだ人にも生きている人にも主とされるためです。－ローマ14:9

パウロは4節でとても強い語調で語ります「他人の召し使いを裁くとは、いったいあなた(thou)は何者ですか」と(英訳の名詞"thou"はギリシャ語では強調語)。主ご自身に対して責任を負うべき主の僕を裁くことは越権行為です！私たちによらないでは主が何もなし得ないかのように、私たち自身が彼らの主人であるかのように振る舞い、また彼らを矯正しようとするのは、私たちの分ではありません。私たちは彼らのために死んでいないのです。私は死んだ者の、また生きている者の主ではありません。では、何ゆえに私が他の人々の人生を制御する権利を持ち得るのでしょうか？私にできるのは、神さえも私に対して忍耐されているのですから、彼らに対して忍耐を持つことです。そして何にも増して、主の御霊が私の心のうちで御業をなされることに信頼することです。その時、兄弟姉妹たちの内側で主が同じように御業をなされることに信頼できるのではないのでしょうか？

ウォッチマン・ニーによる霊想

荒野に宴をもうけ(4月)

＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

4月4日

見よ、兄弟が共に座っている。なんという恵み、なんという喜び。かぐわしい油が頭に注がれ、ひげに滴りー詩篇133:1-2

詩篇133編は都のぼりの歌であり、礼拝のためにエルサレムに上る人々によって、年に3回歌われました。その道すがらにはあらゆる種類の人々がいました。しかし彼らはただひとつのことを願っていました。彼らはみなシオン、すなわち神のみ住まいを目指していたことです。これらの大いなる多様性をもった人々はみなひとつに結ばれた兄弟たちでした。どのようにしてでしょう？この絵が説明するとおりです。すなわち、注がれた油によるのです。

そこにはただひとつの「聖なる油」がありました。すなわち神ご自身の御霊です。しかもその油は、昇るのではなく、下る(2節)のです！言い換えると、その油は各人に直接したたるのではなく、まず頭なるキリストに注がれるのです。御霊は、他でもない、ただキリストにおいて真の安息と満足を得られるのです。この方のみをしっかりと頭とし、あらゆる事柄でこの方に従いなさい。そうすれば同じように生きている人々と歩みをともにすることができます。規則は社会では有効ですが、御体にはひとつの法則があります。それはいのちの御霊の法則です。油塗りを無視するならば、あらゆる事柄が困難になるでしょう。御霊に従うならば、平安があなたの心を満たすでしょう。ここに神の子供たちの単純な生き方の秘訣があります。この事に関しては何らの疑問の余地はないのです！

荒野に宴をもうけ(4月)

＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

4月5日

主の契約の箱をシロから我々のもとに運んで来よう。そうすれば、主が我々のただ中に来て、敵の手から救ってくださるだろう。－1サムエル4:3

イエスラエル人にとって神の箱は契約の箱でした。彼らは、どんなに自分たちが主に對して不実であったとしても、とにかく主はその契約を満たすべく敵から自分たちを守ってくださるだろう、という幻想を抱きました。しかし神の子らが神ご自身から二心によって離れてしまう時、主は彼らを敗北に委ねたのでした。彼らは神がご自身の栄光のために救って下さると考えましたが、神は敵に対してご自身の栄光を示すより、ご自身の聖なるご性質の証を優先されたのです。神の僕が失敗する時、私たちはその事態を隠蔽することを考えます。私たちはそのような動機によって、神がご自分の栄光のために、たとえ何かを隠したままであったにしても、私たちを露わな恥から救い出してくださるように祈ります。しかし神の道はそれと真逆です。神はまず彼らを公衆の前で敗北へともたらさなくてはならないのです。それは彼らの汚れからご自身を分離するためです。神はけっしてそれらを隠蔽されません。神の栄光は徳性に宿るのであり、よって虚しい勝利によって偽るよりは、彼らの敗北を晒すことの方を許されるのです。

荒野に宴をもうけ(4月)

＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

4月6日

ダビデは地面から起き上がり、身を洗って香油を塗り、衣を替え、主の家に行って礼拝した。－2サムエル12:20

ダビデの息子はダビデの罪のゆえに死にました。ダビデは悔い改め、祈りの人として熱心に息子の命のために断食をして祈りました。しかし子供は死にました。遜りの霊を知らない者や、神の取り扱いの原則を知らない者であれば、神に対して憤りまた恨みすら抱くことでしょう。ダビデはそうではありませんでした。子供の死を知らされて、彼はただちに立ち上がり、神を礼拝したのです。神はご自身の聖を証するために、このような事態、すなわちご自身の僕たちを苦難の炎の中へともたすことがあります。そのような時、彼らは、神の統治の御手に対する彼らの反応によって試されます。もちろんダビデは深い悲嘆を覚えたでしょう－彼もまさに人間だったからです。しかし彼は長い間に神のお取り扱いの方法を理解するようになり、そのことに何らの憐憫も覚えることなく、むしろ神の御意志に対して頭を垂れ、礼拝したのです。このような事が起こる時、果たして私たちはこのようになし得るでしょうか？このことによりダビデは神の御心に従う者と認められたのです。

ウォッチマン・ニーによる霊想

荒野に宴をもうけ(4月)

＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

4月7日

あなたたちは真理を知り、真理はあなたたちを自由にする。－ヨハネ8:32

私たちは神の言葉を読むことにおいて、超霊的になることを避ける必要があります。例えば、ヨハネの黙示録の新しい天と新しい地は、主の復活が事実であるのと同様に事実です。神に関わる事柄をすべて霊的に解釈する傾向は、真理を真に理解していない人々の必死の誤魔化し的な手段なのです。私たちの多くは霊的な真理を蓄えているでしょう。しかし、私は恐れるのですが、それは単に自分自身のために偽りの世界観を造り上げることに過ぎないのです。私たちは真理と教義を混同します。しかしそれらは絶対的に異なるのです。教義とは永遠の事柄についての地上的な説明です。中国語の聖書において「真理」とは「真理(*chen-li*)」であり、意味は「实际的教義」です。しかしギリシャ語の意味では、「理(*li*)」はなく、単に「真(*chen*)」の意味であり、それは実際(*reality*)を意味します。教義は後付けのものです。「あなたがたは真理を知る」と言われたイエスご自身がすべてを包含する真なのです。私たちの霊的成長のしるしは、イエスご自身が真であるゆえに、私たちにとってあらゆる霊的事柄が実際となることに現れるのです。

荒野に宴をもうけ(4月)

＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

4月8日

彼らのために、わたしは自分自身をささげます。彼らも、真理によってささげられた者となるためです。－ヨハネ17:19

ひとつのことが確かです。それはあなたとあなたの主の間に何か妨げがあるとしたら、あなたは他者を弱めることしかできません。あなたは彼らを引き上げることはできません。彼らが低い状態の時には、あなたがさらに引き下げるだけでしょ。彼らが重いと感じる時には、あなたの出現はただ彼らの重さをさらに増やすだけでしょ。もしあなたが神の民の交わりにあって供えとなることがなければ、彼らに対して何も貢献することもできず、ただ彼らの強さを減じるだけでしょ。

しかしあなたと主の間に何らの妨げもなくすべてがクリアであれば、事態は逆転します。あなたが現れることは彼らにとっての祝福となり、疲れ果てた人に新鮮さをもたらし、聖徒らの礼拝、祈り、そして賛美にいのちを加えることができます。神との生けるタッチを維持しなさい。そうすればあなたも同じ生けるタッチによって、それを喪失した人々を回復するために用いられることでしょ。

＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

4月9日

信仰によって、アブラハムは、試練を受けたとき、イサクを献げました。つまり、約束を受けていた者が、独り子を献げようとしたのです。この独り子については、「イサクから生まれる者が、あなたの子孫と呼ばれる」と言われていました。－ヘブル11:17-18

私たちはアブラハムが言ったかも知れない事を理解することができます。彼は多分次のように論じることがあり得たでしょう：イシマエルを追い出す命令は容易に理解できるが、この新しい指示、それは単にイサクを追い出すだけではなく、彼を屠れと言うが、これはどうして理解することができない、と。イシマエルはアブラハムの誤った努力の結果でした。したがってイシマエルを家から追い出す命令は尊重することもできたのです。しかし、イサクは！イサクは別です！彼は完全に神からのものです。それは単に息子に対するアブラハムの愛情を満たす存在であるばかりではなく、神の定めた計画を成就する存在でもあるのです。もしイサクが死んでしまったら、神は何をなし得るでしょうか？

しかし、アブラハムは理屈を言わないことを学んでいました。彼はまったく抵抗することがありませんでした。彼は犠牲についても語ることもしませんでした。彼は単純にモリヤの山に登って神を礼拝しようと言ったのでした。すなわち真の礼拝とはこのようなものです－神が下さった賜物、神がなして下さったすばらしい経験、そして神にあるあらゆる希望をすら、神へとお返しすることです。そして神ご自身だけに喜びを見い出すことです。

荒野に宴をもうけ(4月)

＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

4月10日

そもそも、いったいだれが自費で戦争に行きますか。ぶどう畑を作って、その実を食べない者がいますか。－1コリント9:7

私たちの目が置かれる対象は神です。また私たちの物質的必要性を告げる対象も神です。そしてご自身の子供たちのこれらの必要に関して、彼らの心に触れてくださるのも神です。そうです、雇われた者はその雇用に相応しい者であるべきなのです。すなわち神は福音を告げ知らせる者は福音によって生きるように定められました。しかし私たちは自問すべきでしょう: 私たちは誰のために労苦するのか、と。もし私たちが人に仕えるのであれば、私たちのすべての支えについて、人を当てにしなくてはならないでしょう。しかし私たちが神のための働き人であれば、神は私たちのあらゆる必要を、関わりのある兄弟姉妹を通して満たされるにしても、私たちが第一に当てにすべきは神であって、人ではありません。もし召命と委託が神によるのであれば、私たちが神に従う際のすべての責任は神にあるのであって、私たちは神がどのようにそれを全うされるかについて尋ねる必要はないのです。

荒野に宴をもうけ(4月)

＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

4月11日

行かせることはない。あなたがたが彼らに食べる物を与えなさい。－マタイ14:16

霊的な貧困と欠乏は教会における最も大きな二つの問題です。ほとんどのクリスチャンはあまりにも霊的に貧しいため、自分の必要を満たすことすらできません。ああ、どうぞ、誰かが彼らを助けることができますように！しかし貧困は結果であって、原因ではありません。また欠乏も結果であって、原因ではありません。貧困と欠乏の原因は御霊による訓練の欠如によります。霊的に豊かな者、ただ彼らだけが、その訓練を知っているのです。彼らは神と共なる霊的歴史を持っており、それは彼らが御体のために苦しみを経験しているからです。彼らの病、彼らの家庭の問題、彼らの逆境、これらはすべてキリストが彼らのうちで増し加わるための配剤なのです。つねに何かを与えることができるのはそのような者たちです。反対にそのような訓練を経ない者たち、すなわち安易にして贅沢な生き方を選ぶ人々は、霊的には欠乏しかつ貧困に落ちています。貧しい者や必要を抱える者が彼らのところに助けを求めて来ても、それはまったくの徒労に終わります。彼らからは何もあふれ流れるものがないからです。

ウォッチマン・ニーによる霊想

荒野に宴をもうけ(4月)

＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

4月12日

それは、死をつかさどる者、つまり悪魔を御自分の死によって滅ぼしーヘブル2:14

イエス・キリストの死において、サタン¹の死の力は永遠にその終焉を迎えました。その死は他のすべての死を滅ぼす死でした。アダムにおける死は人を終わりにしませんが、キリストにある死は人を終わりにします。それは全能の死です。キリストにあって、すべての死ぬべき者は死にました。その結果、死の力を持つ者の支配力はすでに消滅したのです。彼らは死んでいます。その灰には火をつけることはできません。キリストの御業は単に贖いの業であるばかりではなく、それが意味するすべての事柄と共に、死自身の滅びでもあるのです。一度灰になった家は二度と燃えることはありません。火は一度その仕事を達成するのであれば、同じ事を二度する必要はないのです。私たちはキリストにあって一度すでに死んだ者とされているのですから、死そのものも終わっているのです。私たちは今やキリストの滅びることのないいのちを受け継いでいるのです。

荒野に宴をもうけ(4月)

＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

4月13日

このように、あなたがたも自分は罪に対して死んでいるが、キリスト・イエスに結ばれて、神に対して生きているのだと考えなさい。－ローマ6:11

「考える(reckoning)」とはどういう意味でしょうか？それは「自力で無理やりに信じること」ではないことは確かです『考える』のギリシャ語は会計の複式簿記の用語です。会計は私たち人類が唯一正確になし得る仕事です。絵描きが写真のように精密な絵を描き得るでしょうか？歴史家はどんな史料に基づこうとも絶対的に正確な歴史を構築できるでしょうか？あるいは地図職人が完璧に精巧な地図を描き得るでしょうか？彼らはせいぜいかなり本物に近いものを作ることはできるでしょう。では私たちが完全に信頼を置くことができるものは何でしょうか？算術です！それには不完全性はまったくありません。ひとつの椅子とひとつの椅子を足せばふたつの椅子です。それはロンドンでもケープタウンでも、ニューヨークでもシンガポールでも同じです。世界のどこにおいてもいつでも一足す一は二です。

では神の宣言が真理ではないことがあり得ましようか？神は私の帳簿において何かを取りこぼされることがあるでしょうか？あり得ません！神が、私たちは罪に対してすでに死んだと考えよ、と言われるならば、それは私たちの罪に対する死はキリストにあって永遠に成し遂げられた信頼するに足る事実なのです。

荒野に宴をもうけ(4月)

＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

4月14日

祭壇の角のところまで、祭りのいけにえを綱でひいて行け。－詩篇118:27

何の目的のために焼き尽くす捧げ物は主の祭壇に置かれるのでしょうか？それは完全に主のものとされるためです。動物の捧げ物は、その所有者の財産に従って、牛であったり、羊であったり、あるいは鳩であったりしましたが、捧げ物とされる条件は完全に主のために焼き尽くされることでした。なぜなら神はまったく捧げ物に至らないものを受け入れられません。今日においては、その祭壇は神のために何かをすることではなく、神のためにどのような存在であるかを意味します。神は私たちの働きではなく、私たち自身を求められるのです。旧約の捧げ物は、最終的にはほふられて死に渡されたのですが、それとは違って新約の捧げ物は、「生きた供え物」です(ローマ12:1)。祭壇の意味は私たち自身を神へと完全にお捧げすること、しかも生きた者として、そして永遠に捧げられた者とされることです。

ウォッチマン・ニーによる霊想

荒野に宴をもうけ(4月)

＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

4月15日

しみやしわやそのたぐいのものは何一つない、聖なる、汚れのない、栄光に輝く教会ー
エペソ5:27

神聖な恵みは、いつの日かキリストがご自身のために栄光の教会を迎える、と言う宣言において、その永遠の目的を表現しています。私たちはここで妻たる教会を備えるためには、いのちの水と御言葉のきよめが必要であることが分かります。現在彼女は墮落によって傷を受けていますが、その日には栄光の中でキリストへと捧げられるのです。今日においては、私たちは墮落した人類の贖いの物語の中に置かれており、私たちは依然として埋め合わされるべき欠けがあり、また癒されるべき傷があります。しかし彼女に対しては、なんと栄光に満ちた言葉が使われていることでしょうか!「しみのない」ー罪の傷痕もなく、その傷の歴史は思い出されることがありません;「しわのない」ー老化と失われた時の兆候はすでになく、いまやすべてが新しくされています;そして「汚れのない」ーそれによりサタンも悪霊も人も責めるべき根拠を彼女に見出すことはできません。神は私たちに対して時空間での事象を飛び越えて、思いの中でその栄光の教会を提示してくださっています。彼女には人類の墮落の痕跡はもはやなく、神の御子の栄光のイメージだけがあるのです。

ウォッチマン・ニーによる霊想

荒野に宴をもうけ(4月)

＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

4月16日

こういうわけで、わたしたちは、憐れみを受けた者としてこの務めをゆだねられているのですから、落胆しません。－1コリント4:1

神の最高のご目的を次のどちらによって見極めるのでしょうか?賜物による務めによるのでしょうか、それともいのちの務めによるのでしょうか?一時的な諸教会の導きのためには奇跡的なしるしによる務めもなされるでしょうが、この文脈においては、パウロは私たちに対してもっとも重要な点を指し示しているのです。それはそのようなしるし・不思議による務めではなく、ただ死を経ることによってもたらされるキリストのいのちの務めなのです。賜物ではなく、十字架の働きによるのです。これによって人の度量は計られるべきでしょう。

若い諸教会を高揚させ、多くの魂を獲得するために、霊的な賜物はある特別の重要性を持つでしょう。しかし、それ自体が成熟の度合いの現われではなく、ましてそのことによって誇ることがあってはなりません。ただ愚か者だけが神が下さった言葉で自ら誇り高ぶるのですが、神はもし必要とあらば、ロバの口によってすら語ることをみせておられるのです!

荒野に宴をもうけ(4月)

＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

4月17日

むしろ、霊に満たされ、詩編と賛歌と霊的な歌によって語り合い、主に向かって心からほめ歌いなさい。－エペソ5:17-18

Plerousthe－「満たされなさい」－と言う表現は、ここでは聖霊に関係して用いられています。「絶えず完全に満たしていただきなさい」それはただペンテコステの日の事件だけではなく、私たちがあらゆる時に、それを享受すべき状態にあるべきことを意味します。しかもそれは外見的な霊的賜物や徴の現れではなく、私たちの霊の中における御霊のきわめて個人的な臨在と働きを意味するのです。それはもし必要とあれば長き暗闇の中においても、ランプを絶えず輝かせ続けることのできる油を備えることを意味します。さらにそれは単にプライベートな、個別の経験にとどまりません。他のクリスチャンたちと互いに分かち合うべきものなのです。パウロは霊的な歌を共に歌えと言います。私たちはみ大勢での合唱より、たとえデュエットであったとしても、ソロで歌う方が容易であることを知っているでしょう！しかし御霊の満たしはこのことのために与えられるのであり、それによって私たちは御座の前で新しい歌を共に歌うことができるのです。

ウォッチマン・ニーによる霊想

荒野に宴をもうけ(4月)

＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

4月18日

器がどれもいっぱいになると、彼女は、「もっと器を持っておいで」と子供に言ったが、「器はもうない」と子供が答えた。油は止まった。－2列王記4:6

神聖な全能なるお方は、ご自身が私たちの容量に従って制限されることを許されます。神の霊の油は人が神のために用意している容量に従って流れ込むのです。神聖な祝福は人間の受容力の限界に服するのです。「この潤れ谷に次々と堀を造りなさい」とエリシャはある時に語りました。「主がこう言われるからである。『風もなく、雨もないのに、この潤れ谷に水が溢れ、・・・』これは主の目には小さいことである。主はモアブをあなたたちの手にお渡しになる」(3:16ff)。人は神が与えてくださる以上のものを獲得することはできません。しかし人は自らの選択次第で、それ未満しか受けられない場合もあります。『あなたがたはいのちを得るためにわたしの元に来ようとしなさい』

荒野に宴をもうけ(4月)

＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

4月19日

イエスは、『あなたの神である主を試してはならない』とも書いてある』と言われた。－マタイ4:7

神を試すことと、神を試みることはまったく異なる事柄です。前者は禁じられていますが、後者は歓迎されるのです。表面的には同じことのように見えます。しかしまったく異なります。その相違を生み出すのは、神の言葉を通して伝達される神の御旨についての知識です。イスラエル人とエジプト人がそのよい例証となるでしょう。紅海に進み行く際、両者とも大きなリスクを取りました。イスラエル人にとっては栄光の救いへと導くリスクでありましたが、エジプト人たちはそこで不名誉な死を迎えました。何故でしょう？それは、両者のうちイスラエル人は神の言葉に応答した行為だったからです。イスラエル人はその言葉を勝利の試みに置いたのです。

あるいは、パウロと彼の若き友人テモテを考えてください。その弱い肉体にある人生において使徒パウロは、自分より10倍も強い肉体を持つ友人よりもはるかに大いなる事を達成したのです。理屈に抗しつつ、彼は神の力の十全性を証明したのです。しかしテモテに彼の真似をせよ、とは求めていません。逆にテモテに対して、その健康を気遣うように助言しています。なぜなら、テモテに対して神の指示がないままにパウロと同様の事をなせと勧めることは、神を試すことに他なりませんでした。しかしそのような指示がある場合は、それに従うことは神の真実を証することを意味するのです。

ウォッチマン・ニーによる霊想

荒野に宴をもうけ(4月)

＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

4月20日

神よ、わたしを究め／わたしの心を知ってください。わたしを試し、悩みを知ってください。
－詩篇139:23

真の自己を知る知識は内側を見つめることによっては得られません。内省は決して明らかな理解をもたらすことはありません。そうではなく、私たちが真実を見るのは神からの光が来るからです。それはとても単純です。私たちの顔がきれいかどうか知りたい時にはどうするでしょうか？手を使って顔がきれいかどうかを確認するでしょうか？もちろん、否です。ただ鏡を持って、明るいところに出るだけです。その光の中ではすべてが明らかとなります。

あなたは「わたしを究め」の意味を真に理解しているでしょうか、あるいはしていないでしょうか？それは自分自身を調べることでないことは明らかです。「わたしを究めて」とは「あなたがわたしを究めて下さい！」という意味です。それは聖霊の照明によります。神ご自身が私たちの内にあって、わたしたちを調べて下さるのです。自己に関する真実を見るのは、私が自分を調べることによるのではなく、神が私を調べて下さることによるのです。

ウォッチマン・ニーによる霊想

荒野に宴をもうけ(4月)

＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

4月21日

キリスト・イエスによって命をもたらす霊の法則が、罪と死との法則からあなたを解放したからです。－ローマ8:2

かつて厘金(りきん)税は中国の商人にとってきわめて重い負担でした。それは誰も逃れることができず、清王朝から実施され、今日の私たちの時代まで継続しています。それは大陸内の税であり、商品を輸送する際にかげられ、帝国内すべてに及び、それを改正するためには大きな障害があり、官吏たちはそれにより絶大な権力を行使していました。しかし数年前に厘金法と共に、第二の法律が施行されました。古い法律の下であえいでいた人々の解放感を想像できますか？今や思い煩う必要はないのです。新しい法律が古い法律から彼らを解放したのです。厘金税徴収の役人と対面しても、何をどう答えようかとあらかじめ考えおく必要もないのです！同様に神は新しい法則を導入して私たちが古い法則から解放して下さったのです。かつての法則は私たちが罪と死の中に幽閉しました。新しい法則は私たちがいのちの御霊との結合へともたらしてくれるのです。

ウォッチマン・ニーによる霊想

荒野に宴をもうけ(4月)

＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

4月22日

その証しとは、神が永遠の命をわたしたちに与えられたこと、そして、この命が御子の内にあるということです。－1ヨハネ5:11

クリスチャンの恵みとキリストご自身、謙遜とキリストご自身、忍耐とキリストご自身、そして愛とキリストご自身の相違を見ることは大いなる祝福です。神は私たちに対して、恵みの賜物として謙遜や忍耐や聖潔や愛を、個々別々に賜るものではありません。神は忍耐の欠如した者に幾分かの忍耐を、愛のない者に少々の愛を、高ぶる者にいくばくかの謙遜を、恵みの小包としてまた私たちの取り分あるいは資本の一部として分配されるものではありません。神は私たちの真の必要の満たしである唯一の賜物、すなわち御子イエス・キリストをすでに下さったのです。

一般的聖潔の概念は私たちが生活のすべてにおいて聖であるべきことです。しかしそれは聖ではありません。それは聖の実に過ぎません。聖とはキリストご自身です。主イエス・キリストご自身が私たちにとって聖となられたのです。ですからあなたはその方の中に、愛、謙遜、力、自制など、すべてを所有しているのです。今日私たちには忍耐が必要かも知れません。主が私たちの忍耐です！明日には聖潔が必要でしょう。主が私たちの聖です。それは私たちの個人的な欠点がどうであれ、関係ありません。あるいはその必要が百一の異なる事柄であれ、問題ではありません。主が私たちのあらゆる必要への答えなのですから。

ウォッチマン・ニーによる霊想

荒野に宴をもうけ(4月)

＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

4月23日

彼女は夫に言った。『いつもわたしたちのところにおいでになるあの方は、聖なる神の人であることが分かりました。』－2列王記4:9

エリシャは偉大なシュネムの女に対して、何と言う印象を与えていたことでしょうか！この時点までに彼は、彼女の家において何らのしるしもなしておらず、また神からの預言の言葉も語った記録もありません。彼はただその家を通り過ごす際に姿を見せていただけであり、また食物を分けてもらっただけでした。彼女も彼を十分に知っていたわけではありませんでした。それでも彼女は夫に対して言ったのです、「あの方は神の人であることが分かりました」と。その印象は彼が語ったりなしたりすることによるものではありませんでした。それは彼の存在そのものによるものだったのです。彼が現れたとき、彼女は神の臨在を感知したのです。

では私たちから人々は何を感じるのでしょうか？ 私たちも同様の印象を醸すのです。人々は私たちが頭が良いと評価するのでしょうか？あるいは賜物があると？それとも私たちがああであったり、こうであったり、またかくかくであると？エリシャの訪問は彼女にひとつの意識的な影響をもたらしました。それは彼の訪問の度に、神ご自身の印象を残したのです。

ウォッチマン・ニーによる霊想

荒野に宴をもうけ(4月)

＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

4月24日

そこで、主に結ばれて囚人となっているわたしはあなたがたに勧めます。神から招かれたのですから、その招きにふさわしく歩み—エペソ4:1

私のうちにいます神の聖霊が人格を持たれる方であることが、私には明らかにされているでしょうか？私は単なる土くれの器に過ぎませんが、その器の中に語ることでできない宝を宿しているのであり、それは他でもない栄光の主ご自身なのです。神の子たちのあらゆる思い煩いや悩みは、もし彼らが宿している富の価値に対して目が開かれるならば、また彼らの必要を満たしてあまりあるその資源を見出したならば、たちまち雲散霧消することでしょう。その心の中に宿る宝の偉大さを理解するならば、あらゆる不安定さなども消えてしまうことでしょう。あなたがポケットの中にたった1ドルを持って町を歩いたとしても、それを失うことは問題ではないでしょう。なぜならそれほどの重大性もないからです。しかしもし額が5千ドルだったらどうでしょうか。あなたの立場はまったく異なるものとなり、物腰も変わることでしょ。あなたの心には大いなる喜びが満ち、道すがら軽率な行動を取ることもないでしょう。もし不注意に道を外れたとしても、ただちに胸に手を入れるならば、そこには確かな宝があることを指先で確認できるのです。そして再び喜びに満ちて歩み続けることができるのです。そうです、私はこのことを最高度の厳粛さをもって語りましょう:あなたは神の御霊から生まれた者であり、あなたは心の中に神を宿しているのです！

ウォッチマン・ニーによる霊想

荒野に宴をもうけ(4月)

＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

4月25日

彼らは焼き物師で、ネタイムとゲデラに住み、そこで王の近くにとどまって王の仕事に従事した。－1列王記4:23

ダビデは有能な人材をたくさん持っていました。ある者は将軍たち、ある者は門番たちでしたが、それは王が彼らを任命したとおりでした。私たちも同様に、自分の意志に従ってではなく、神が委託された役目を、将軍であれ、門番であれ、それを喜んで受けるべきです。あなたがクリスチャンであるならば、神は必ずひとつの道程をあなたのために用意されています。それはかの使徒が第二テモテ4章7節において「工程」と称しているものです。パウロの工程だけでなく、すべての神の子たちの工程が神によって明確に定められているのです。よって私たちはみなその神の定めた工程を知り、その中を歩む事が何よりも重要になります。「主よ、私は自分をあなたにお捧げします。あなたが定めた道を歩むことだけを願います」と。これが真の聖別です。もし私たちが人生の終わりにあって、パウロと共に「私は私の走るべき工程を走り終えた」と証しすることができたら、それは何と言う祝福でありましょうか。なぜなら私たちが生きるべき道はただひとつであり、人生の終わりにあって、自分が間違った道を歩んでいたことを知ることほど悲劇的なものはないのですから。

ウォッチマン・ニーによる霊想

荒野に宴をもうけ(4月)

＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

4月26日

神に従う人の道は輝き出る光／進むほどに光は増し、真昼の輝きとなる。－箴言4:18

ソロモンや他の王たちの例があるとは言え、人の最期の日が霊的な墮落であると思うべきではありません。カナンから還ったヤコブの最期を考えてください。以前にはまったく安息の欠如していたヤコブが今や静かに地に伏しているのです。そこで、自分の家族関係において、彼は多くの悲しみや失望を経てきましたが、それでも彼は家族に対して忍耐と他者への顧みを示しましたが、それは自分中心だった彼の若い頃においてはまったく欠如していたことでした。あるいは彼が権力の座にいるヨセフの父親としてエジプトにいた時のことを考えてください。彼がもし若い頃のようにであったとしたら、ヤコブはそれを自分に有利になるように利用したことでしょう。しかし今や彼は円熟した老人として静かに脇に下がっていることで満足しているのです。このような人物による成熟した預言的祝福はまさに創世記のクライマックスとしてふさわしいものだったのです。

ウォッチマン・ニーによる霊想

荒野に宴をもうけ(4月)

＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

4月27日

神ここに聖徒たちの忍耐と信仰がある－黙示録13:10

もはや忍耐を働かせることが困難と感じ、「いつまでですか?」と問いを發する人々がいます。しかしその開始から、本書は裁きを取り扱っていることは重要であり、ヨハネは自らを「あなたがたの兄弟であり、艱難にあつてあなたがたとイエスにある御国と忍耐を共にする者」として描いているのです。黙示録においては神が長き渡る忍耐を終え、裁きを執行しているのです。忍耐は裁きがまだ行われていない時にのみ必要とされるのです。いったんそれが開始されたならば、もはや忍耐は必要ありません。しかしまだその時は来ていません。ヨハネと同じく私たちも忍耐が必要とされる時を生きているのです。圧迫や悪に対して剣を取り上げたくなるのは容易ですが、殉教した聖徒たちでさえ、彼らの人数が満ちる時まで待つようにと言われているのです(6章10節)。神は忍耐の欠如を正当化されることはありません。神ご自身でさえも長期にわたり忍耐されているのです。私たちも神の忍耐に自分を委ねて、神に対する真の信仰を表そうではありませんか。

ウォッチマン・ニーによる霊想

荒野に宴をもうけ(4月)

＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

4月28日

そこで神は、御自分の望みのままに、体に一つ一つの部分を置かれたのです。－1コリント12:18

どうぞ私に教えてください、手と足とどちらが重要でしょうか？こう考えるならば、比較のしようがないことが分かるでしょう。人体におけるそれぞれの機能は固有のものであり、それぞれがどれもみな等しく必要なのです。しかし多くの人々が自分の召命を小さなものとしています。彼らは自分が評価する大きな肢体のようになり得ないので、自分自身の在り方を放棄しているのです。これがまさにイエスがマタイ25章で示したタラントのたとえ話で描かれた状況です。ある者は5タラント、ある者は2タラントでしたが、このたとえの強調点は1タラントを得た僕にありました。それは1タラントの僕がそれを地に埋めてしまう危険性でした。彼は自問自答したことでしょう、「自分は影響力のある立場は得られない。ならば自分が何をしてもしなくても、いったい何の違いがあるだろうか？」と。多くの人々がそのように考えるのです！しかしたとえ話が告げるように、もし2タラントが4タラントになるのであれば、1タラントは2タラントになるのです。それは私たちがいのちを見出すことによります。教会全体のいのちは、1タラントの僕がそれを活用しないために停滞し、また貧しいものとされてしまうのです。

ウォッチマン・ニーによる霊想

荒野に宴をもうけ(4月)

＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

4月29日

わたしの肉もわたしの心も朽ちるであろうが／神はとこしえにわたしの心の岩／わたしに与えられた分。－詩篇73:26

私の知人の兄弟が、数ヶ月間説教をするために招かれました。その時彼の妻は、彼がとても愛していたのですが、ひじょうに健康状態が悪かったのです。ある友人が彼に対する最終的な手紙を私に送ってきていました。そこで私は彼に気づかれないように家を見に行くと、彼が出て来ては、すぐ立ち止まり、またしばらくして迷いながらゆっくり戻って行く様子を目撃しました。私は待つことができなかったのですが、彼の霊の迷いを感知して、別の道を通って川を渡る船のところまで、先に行っておりました。そして彼が到着したとき、先の手紙を手渡して、こう語りました、「主の祝福があるように」と。すると彼の答えは彼が完全なる平安にあることを証明しました。数ヶ月後に彼が帰ってきたとき、私はその出来事に何気なく言及してみました。彼はこう告白したのです、「確かに、私は立ち止まったとき、妻を放置し、援助もお金もないままに子供たちを残しておくことなどできないと感じました。しかし、戻ろうとしていたとき、『誰でもくわに手をつけて後、後ろを振り向く者は神の国にふさわしくない』と言う御言葉が来たのです。それで私は再度出かけて、船に乗ることができたのです。涙をぬぐいつつ、くわに手をおくことーこれがクリスチャン信仰です。

ウォッチマン・ニーによる霊想

荒野に宴をもうけ(4月)

＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

4月30日

この大軍を前にしても恐れるな。おじけるな。これはあなたたちの戦いではなく、神の戦いである。－2歴代誌20:15

勝利を得ようとして戦うならば、あなたは最初から敗北しているのです。クリスチャンとしてのあなたの敗北は、まさにあなたが勝利を得なくてならないと考えたときに始っていたのです。たとえばサタンがあなたの家庭や仕事に攻撃を仕掛ける場合を考えましょう。困難が山積みとなり、誤解されるようになり、あなたはその状況をどうしようもなく、またその圧迫から逃れることもできなくなり、それによって打ちのめされてしまうことでしょう。何日間もわたり、あなたは祈ったり、断食したり、戦ったり、抵抗したりするでしょう。しかし何も変わらないのです。何故でしょう。それはあなたがその戦いに勝利しようともがき、そのようなもがきの中であなたの得ている立場を失ってしまうからです。キリスト・イエスのご人格にあって神はすでに勝利されました。勝利はキリストのものだから、私たちのものでもあるのです。神はキリストの勝利を保つように私たちに下さったのです。サタンはすでに敗北した敵です。ただキリストの御口から出る一息でサタンに致命傷をもたらせるのですが、あなたはあたかも台風を起こそうと努力しているのです!ではその秘訣は何でしょうか?単純に上を見上げ、主を賛美するのです。「主よ、あなたの勝利は十全です。主よ、あなたはこの状況をも覆うことができるゆえに、あなたに賛美を捧げます!」そして神によって保証されているあなたの勝利の中にただ安息するのです。

ウォッチマン・ニーによる霊想